

令和3年度  
第52回春季全国大会  
埼玉県支部予選



2021.10月17～31日

予備日11月7日

公益財団法人 日本少年野球連盟 埼玉県支部

# 大会要項

主催	(公財)日本少年野球連盟埼玉県支部・第52回春季全国大会 埼玉県支部予選大会
大会期日	2021年10月17日(日)・24日(日)・31日(日) 予備日11月7日(日)
開会式	実施しない
閉会式	決勝戦終了後グラウンド
開催予定球場	埼玉杉戸球場/浦和中央球場/板東球場/安比奈球場/越谷球場/忍保球場
出場チーム	組合せ表による、トーナメント方式
試合規則	2021年度公認野球規則 並びに連盟特別規則による
試合参加資格	2021年度登録チーム所属選手で、連盟登録、傷害保険に加入した中学生
登録役員	代表・監督・コーチ。マネージャー各1名
選手名簿	選手は11名以上25名以内(ベンチ入り選手は25名以内とする)

## 開会式 ・ 閉会式

開会式	都合により実施しない
閉会式	決勝戦終了後予定
1 来賓・役員・審判員・代表・監督・コーチ・選手整列	
2 成績発表	埼玉県支部審判長 前田 一直
3 表彰	埼玉県支部長 野崎 国男
4 主催者挨拶	埼玉県支部長 野崎 国男
5 閉会宣言	大会実行委員長埼玉県支部企画運営部長 昆 勝也
6 選手退場	

以上

## 日本少年野球連盟 埼玉県支部主催大会規定

1. 1チームの登録選手は、小学生の部は11名以上20名以内、中学生の部は11名以上25名以内とする。
2. 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手25名以内およびチーム責任者、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることが出来る。但し、各種登録書(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる場合でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合が出来ない。
5. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録書を携帯すること。
6. 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニホームを着用すること。
7. 試合開始時間60分前に試合会場に到着し、直ちにオーダー表を5部、投球回数記録表副表3部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
10. 試合方式など  
(中学生の部)
  - ① 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦は2時間21分)を超えた場合、新しいイニングには入らない。(ただし、後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
  - ② 4回終了時(後攻チームの得点が先攻チームより多い場合は4回表終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
  - ③ 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規約実施細則「タイブレーク」参照)
- (小学生の部)
  - ① 各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分(決勝戦は2時間)を超えた場合、新しいイニングには入らない。(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(4)

により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。

- ② 4回以降7点差の場合は(後攻チームが勝っている場合は4回表終了時)コールドゲームとする。
- ③ 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク」実施細則)参照)

11. (1)小学生の部の投手の投球数は投球制限(別紙、小学生投手の投球制限統一ガイドライン参照)。  
(2)中学生の部の投手の投球数は投球制限(別紙、中学生投手の投球制限統一ガイドライン参照)。
12. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回守備2回の計4回とする。延長又はタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない)  
(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。  
(3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。  
(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。
13. 1イニングで同一の投手に指示、伝達が2回となれば、自動的に投手の交代となる。その他の守備位置につくことが出来るが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
14. 審判員の判定に関する抗議は認めない。ただしルールの適用についての確認は認める。
15. 監督またはコーチが投手に指示などをするときはマウンドで行うこと(ベンチから駆け足で)
16. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
19. 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチズボックスでベースコーチを務めてもよい。この場合、必ず両耳付のヘルメットを着用すること。
20. 各チームは同色のヘルメットを1チーム7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ(一体型捕手用マスクの場合はヘルメット、ストローガードを除く)】2組を備えること。
21. ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
22. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
24. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
25. 光化学スモッグの発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う
26. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

## 参考

### 野球規則 7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する

#### 【注】

我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終回均等回の総督でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点しホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、また裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合

## タイプレーク実施細則

### (1) 特別規則

- イ) 中学生の部は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて(いずれか早い方)、小学生の部は延長7回あるいは試合開始から1時間40分を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて(いずれか早い方)両チームの得点が等しい時、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- ニ) この場合の代打および代走は認められる。

### (2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

#### イ) 投手記録

- ✓ 規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ✓ 完全試合は認めない。
- ✓ 無安打、無得点試合は認める。

#### ロ) 打撃成績

- ✓ 規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ✓ 規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

※運用指針

令和3年試験運用し、12月に見直し、検討を行ったうえ、令和4年より正式ガイドラインとして運用する。

小学生投手の投球制限ガイドライン

1. レギュラーの部(6～4年生)の大会

1. レギュラーの試合での登板は以下のとおり制限する。(4年～6年)

- ① 1日最大65球とし、連続する2日間で105球とする。

連続する2日間で65球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。

また、3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を40球以内とし

4連投(連続する4日間)は禁止する。

- ② 大会中は1日65球とし、翌日投球を休めば3日目65球の投球を可とする。

- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

- ④ ボークは投球数にしない。

- ⑤ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

2. ジュニアの部(5～4年生)の大会

1.ジュニアの試合での登板は以下のとおり制限する。(5生以下)

- ① 1日最大60球とし、連続する2日間で100球とする。

連続する2日間で60球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。

また、3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を30球以内とし

4連投(連続する4日間)は禁止する。

- ② 大会中は1日60球とし、翌日投球を休めば3日目60球の投球を可とする。

- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

- ④ ボークは投球数にしない。

- ⑤ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

3. 小学部共通事項

1.ダブルヘッダーの投球を禁止する。

2.下記の項目の制限は設けないが指導者は十分考慮する事。

- ① レギュラーの部の大会に於いて5年生(4年生)が投球した場合でもレギュラーの部の投球制限とする。

- ② 小学部においては投手から捕手の制限は設けない。

- ③ 練習における投球数の制限。

## 中学生投手の投球制限ガイドライン

### 1. レギュラーの部(3年生以下の大会)

※ただし、本年9月から翌年3月までの大会は2年生以下の大会とする。

#### 1. レギュラーの試合での登板は以下のとおり制限する。

① 1日最大80球とし、連続する2日間で120球とする。

連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。

また、3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を40球以内とし

4連投(連続する4日間)は禁止する。

② 大会中は1日80球とし、翌日投球を休めば3日目80球の投球を可とする。

③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

④ 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに2連投した投手は、翌日は捕手としても出場できない。

⑤ ボークは投球数にしない。

⑥ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

⑦ 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

### 2. ジュニアの部(2年生以下の大会)

※ただし、本年9月から翌年3月までの大会は1年生以下の大会とする。

#### 1. ジュニアの試合での登板は以下のとおり制限する。(2年生以下)

① 1日最大70球とし、連続する2日間で105球とする。また3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を35球以内とし、4連投(連続する4日間)は禁止する。

② 大会中は1日70球とし、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。

③ ①、②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

④ 連続する2日間で70球を超えた投手、並びに2連投した投手は、翌日は捕手としても出場できない。

⑤ ボークは投球数にしない。

⑥ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

### 3. 中学部共通事項

1. ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は連続2日間投球した事とする。

また、1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。

2. 練習中の投球数は、1日70球以内、週350球以内とする。

また、週1日以上、全力による投球練習をしない日を設ける事。

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となったため、三日目は投手・捕手として出場できない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手として出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。 四、五日目で連続する2日間で80球を超えているため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目で40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板してなくても連続する2日間で80球を超えるため六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休 ※捕手可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は投手・捕手として出場できない。

「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	65	0	65	0	65	0	65球投げた翌日には登板していないため、翌々日には65球投球できる。 (打者終了時に65球を超えても、1試合分の最大カウント数は65球)
投手B	65	40	休	65	0	65	一日目65球、二日目40球で連続する2日間で105球となったため、三日目は登板できない。
投手C	40	25	40	休	65	40	40球以内で連続する2日間で65球以内であれば3日間連続登板可能。 ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は登板できない。 四日目が休みだったので、五日目65球、六日目40球の投球可能。
投手D	40	30	休	15	50	休	一、二日目で65球を超えたため、三日目は登板できない。 四、五日目は65球以内だが、五日目で40球を超えているため、六日目の3日間連続登板はできない。
投手E	65 休	40	休	休 40	65	休	小学生の部はダブルヘッダーの場合、どちらかの試合しか登板できない。 登板した翌日は105球まで投球可能。翌々日は登板できない。
投手F	65	40 休	休	40	25 休	40	一日目65球、二日目1試合目は40球まで、二日目2試合目と三日目は登板できない。 四日目と五日目1試合目で65球以内であれば、五日目2試合目は登板できないが、六日目は40球までは投球できる。

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。  
 ※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可)「0」は登板しなかった試合。  
 ※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。



## ■春季全国大会埼玉予選大会(小学部)

- 10月24日・11月3日(予備11月7日)・開会式…なし    ・選手宣誓…なし  
 毛呂山B球場/深谷B球場    ・登録用紙…A4・5枚  
 旧毛呂山高校球場    ・参加費…18,000円  
 \*① 10/24 (毛呂山B)3試合:12,000円  
 \*② 10/24 (坂戸中央B)3試合:12,000円  
 \*③ 10/24 (深谷B)3試合:12,000円  
 \*④ 11/3 (深谷B)3試合:12,000円

⇒費用は、いずれも「チーム球場費+運営費」の金額。

### ◆10月24日(毛呂山B球場)3試合

Aグループ	①	②	③	勝ち点	得失点差	順位
①毛呂山						
②日高						
③埼玉上尾						

### ◆10月24日(深谷B球場)3試合

Bグループ	①	②	③	勝ち点	得失点差	順位
①埼玉新座						
②深谷						
③富士見						

### ◆10月24日(旧毛呂山高校球場)3試合

Cグループ	①	②	③	勝ち点	得失点差	順位
①勝呂						
②埼玉川越						
③坂中・青葉・相模						

### ◆11月3日(東松山市民球場)3試合

決勝リーグ	①A	②B	③C	勝ち点	得失点差	順位
①						
②						
③						

☆試合時間:1時間40分

☆投球数(1日65球)で実施

☆「引分けあり」で実施

☆試合順 \*開始時間は目安

第1試合(9時):①—②

第2試合(11時):第1試合の敗者—③

第3試合(13時):第1試合の勝者—③

☆順位確定の流れ

- 勝ち点 (コールド勝ち…3点、通常勝利…2点、引分け…1点)
- 得失点差
- 対戦勝利チーム

☆試合結果

優勝	
準優勝	
第3位	
第4位	
第4位	
第4位	
第7位	
第7位	
第7位	

